

お客様の声をうけて

128 種類の残留農薬検査について (訂正 : 2022 年 10 月 5 日)

JCI がお届けしている主力はちみつはすべて、除草剤グリホサート及び 5 種のネオニコチノイド系殺虫剤をはじめとする、128 種類の残留農薬検査を実施しています。

JCI がこの検査の実施に踏み切ったきっかけは、お客様から寄せられた声でした。グリホサートにとどまらず、多様な農薬、なかでもネオニコチノイド系農薬使用が懸念されていることが分かったからです。

なぜ 128 種類なの？と思われるかもしれませんが、80 とか 180 ではなくなぜこんな中途半端な数なのか？それは、ラボ側が検査を求める産業（たとえば食品）に最適な検査対象物質を組み合わせ、そのセットを検査の単位としているからです。

ヒル・ラボラトリーズ (Hill Laboratories) はニュージーランド (NZ) を代表する検査機関です。このラボのアドバイスにより、弊社は 127 種類セットの検査を選びました。このセットは園芸産業むけのものですが、はちみつ製品にも応用できるのです。これに加え、弊社ではグリホサートの検査を依頼しました。こういうわけで、弊社のはちみつは 128 種類の化学物質残留検査を受けているのです。

JCI のはちみつが残留農薬ゼロならば、どうして有機認定を受けないの？と考える方もおられるかもしれません。NZ の有機認定機関ではちみつ (NZ 産) の有機認定を受けるには、有機的手法のみを用いてミツバチヘギダニ対策を行っていることが求められます。ミツバチヘギダニは寄生虫で、このダニが発生するとみつばちのコロニー全体が死滅するおそれがあります。みつばちの健康を守るため、弊社へのはちみつ供給元各社では、有機的手法を選択せず、化学薬品を使用し、あるいは有機的手法と化学薬品をともに使用しています。

(つづく)

JCI / ピュアハニーダイレクト

〒167-0021 東京都杉並区井草 4-21-6 1F | 〒408-0315 山梨県北杜市白州町白須 9576-22

tel: 03 6427 1228 | fax: 03 6913 8801 | email: jci@purehoneydirect.com | www.purehoneydirect.com

2022 年 10 月 6 日

ダニ対策は、みつばちがはちみつを作る晩春から晩夏を避け、春と秋に実施されます。細心の注意をはらってダニ対策を行うことにより、殺ダニ剤がはちみつ中に混入することはありません。

みつばちの命や健康を守る一方で、弊社取扱のすべてのはちみつについて、128種類に及ぶ農薬残留の検査を行うことにより、はちみつの純粋性を保証したいと考えています。

関連リンク

1. はちみつの残留農薬に係る JCI の指針

(127種の農業用化学薬品一覧「英日対照」も同リンクにあります)

<https://www.purehoneydirect.com/information-desk/agricultural-chemicals/>

2. 殺ダニ剤の残留実態調査

<https://www.purehoneydirect.com/information-desk/agricultural-chemical-residue/miticide-residue-survey/>

検査報告書ダウンロード

バッチごとの残留農薬検査結果がダウンロードできます。

(1) モソップ・マヌカハニー

<https://www.purehoneydirect.com/products/mossop-manuka/chemical-free/>

(2) タヒ・マヌカハニー

<https://www.purehoneydirect.com/products/tahi-manuka/chemical-free/>

(3) オヌク

<https://www.purehoneydirect.com/products/native-tree-honey/product-data/>

JCI / ピュアハニーダイレクト

〒167-0021 東京都杉並区井草 4-21-6 1F | 〒408-0315 山梨県北杜市白州町白須 9576-22

tel: 03 6427 1228 | fax: 03 6913 8801 | email: jci@purehoneydirect.com | www.purehoneydirect.com